

**学校名** 本庄市立中央小学校  
**所在地** 本庄市緑1-16-1  
**電話** 0495-21-2361

## 1 本校の概要

本庄市は、埼玉県の北西部に位置する市である。本校は創立42年目、南側に上越新幹線の本庄早稲田駅、北側にJR本庄駅があり、東京から80km圏内ということもあり新興住宅が多く核家族の割合が多い。児童数は578名。学校教育目標は「かしこく」「やさしく」「たくましく」であり、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指して教育活動を行っている。

## 2 本校の実践

### (1) 実践の視点

- ・読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組
- ・学校図書館等の環境整備の工夫

### (2) 実践の概要

今年度の取組は、学校図書館の3つの機能の中でも特に「読書センター」に重点的に力を入れて取り組んできた。

#### ア 読書好きな児童の育成

これまでの「読書貯金」という児童ファイルの名前から、本を開くことで自分の将来につながっていくという思いを込めて「未来のとびら」という名前に変更した。低学年20冊、中高学年は10冊読むと校長から賞状がもらえ職員室前の廊下に名前が掲示される。児童は目的をもって意欲的に読書に取り組んでいる。また、各学年の廊下には学年文庫が設置されており、朝読書の時間や読書の時間に有効に活用されている。



#### イ 読書月間の取組

読書月間では、読書ビンゴ、読書感想文コンクール出品作品紹介ならびに放送、図書委員が児童集会で読み聞かせを行うなどの取組を行った。読書ビンゴは、様々なジャンルの本に挑戦して欲しいとの願いから、学年ごとに違った本を読めるようにした。



#### ウ 学校図書館の環境整備

本市は本年より週2回午前中、学校図書館支援員が配属された。月ごとの掲示物や本の掲示、学習に必要な本を探す作業等を依頼している。休み時間に掲示物を作成することで、一人で来ている児童にとっては話しかけやすい。掲示物に癒されて授業に戻ったりする児童も見られた。



## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

ア 読書ファイルの様式を今年度から一新したことで児童がより意欲的に読書に取り組めるようになった。それに伴い、学校図書館の利用者数も昨年度に比べ2割ほど増えた。

イ 学校図書館支援員のおかげで、市立図書館に依頼して探していた学習に必要な本の選定を学校図書館で行うことができるようになった。

### (2) 課題

ア 読書好きな児童はたくさん読むが、全く読まない児童もおり、二極化が進んでいる。今後は本に興味がない児童へのアプローチを考えていきたい。

イ 読書月間の取組では、コロナウイルス感染症の心配もあるので放送による読み聞かせになってしまった。聴覚による認知が苦手な児童にとっては、理解が難しかったようだ。ICTを活用するなどし、本の世界に触れる機会を増やしていきたい。

### (3) おわりに

学校図書館の3つの機能を網羅した学校図書館運営がますます重要になる。学校図書館の果たす役割を常に考えながら、児童にとってよりよい場所作りを目指していきたい。